

ベタフェロンを注射するための手順-2

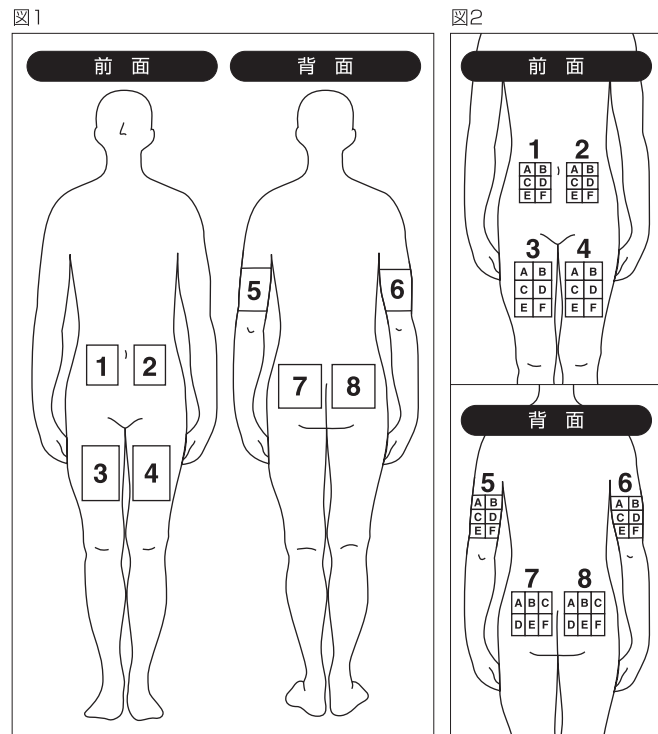
注射 患者さんご自身または家族の方による皮下(皮膚の下)への注射

ここで使うものは

- 「ベタフェロン溶液の調製と注射の準備」で準備したベタフェロン溶液が入っている注射器
- 消毒用アルコール綿(2枚)
- 廃棄箱

1 皮下注射に適している部位は、図1のようにからだの前面と背面に4箇所ずつあります。患者さんご自身で注射する場合は、からだの前面の1～4に順番に注射してください。家族の方に注射してもらう場合は、からだの背面の5～8にも注射することができます。注射は1日おきに行い、注射部位の番号は毎回変えてください。注射部位が一巡して再び同じ番号の部位に注射する場合は、前回とは少し離れた部位に注射してください。

※図2のように、注射部位の番号の1～8をそれぞれA～Fに分割することで毎回詳細な注射部位(1-Aなど)を記録することができます。たとえば、注射部位が1-A、2-A・・・8-Aと一巡して再び1の部位に注射する場合は、前回の1-Aから離れた1-Dなどに注射することにより同じ部位への注射を避けることができます。



1: 腹部 右側 2: 腹部 左側 3: 大腿部 右側 4: 大腿部 左側
5: 後上腕部 左側 6: 後上腕部 右側 7: 臀部 左側 8: 臀部 右側

注意

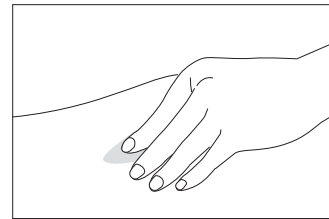
みえている血管は避けて注射してください。へそ、ウエストラインおよび太ももの内側、かぶれたり、ただれている部位には注射しないでください。また、赤くなったり、色が変わったり、腫れたり、硬くなっている部位や痛みが認められるような部位にも注射しないでください。

- 2 消毒用アルコール綿で注射する部位の皮膚を消毒します。
- 3 消毒した注射部位を十分に乾燥させます。
- 4 注射針のキャップをはずします。

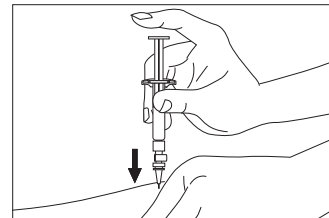
注意

注射針のキャップをはずす際に、針に手などが触れないようにしてください。もし、注射針に手や何かの表面などが触れた場合は、その注射器は使用せずに新しいバイアルを使用して調製を最初からやり直してください。

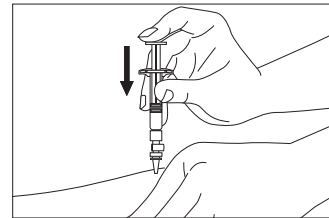
- 5 注射部位の皮膚をやさしく持ち上げます。



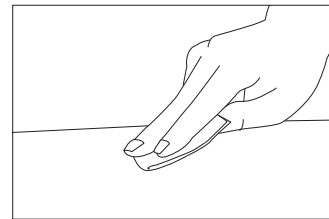
- 6 注射器を持った手を注射部位近くの皮膚の上に持ってきます。そして、皮膚に対して垂直に素早くしっかりと根元まで針を刺します。



- 7 ゆっくりと確実に注射器のピストンを押して皮下に薬剤を注入します(注射器が空になるまでピストンを押します)。



- 8 皮膚から注射針を抜き、新しい消毒用アルコール綿で注射部位を軽くマッサージします。



注意

決して強く揉まないでください。

- 9 使用済みの注射針にはキャップをはずさずに注射器ごと廃棄箱に入れます。

注意

廃棄箱と廃棄袋は、子どもの手の届かないところに保管し、次の来院時に必ず持参してください。

※あなたが気づいたどのようなことでも、主治医に相談してください。



ベタフェロン[®]皮下注射用960万国単位注射針付 患者用取扱い説明書

大切な注意です。必ずお読みください。

在宅自己注射をされる方へ

これからは、あなたの主治医の指導のもとで、あなた自身または家族の方にベタフェロンの注射を行っていただきますので、十分に説明を聞き、この説明書に書かれている内容をお読みになって正しく注射してください。

不明な点や不安な点、何か体の調子がいつもと違うことに気づいたら、そのままにしないで必ず主治医に相談し、また、適切な治療のために

主治医の指示にしたがって来院予定日には必ず来院し定期的に診察を受けてください。

なお、この薬の妊娠および出産に関する安全性は確立されていませんので、治療期間中に妊娠した場合は注射を中止してすぐに主治医に申し出てください。

<自己注射するときの注意>

1. 指定された注射剤を主治医の指示どおりにお使いください
自分で適当に量や回数などを変更してはいけません。量を多くすると副作用があらわれるおそれがあり、逆に量が少ないと効果が期待できないことがあります。
注射方法については2頁以降の「ベタフェロンを注射するための手順」をよく読んで、注射を行ってください。
もし、注射を忘れた場合は気づいた時点で注射してください。ただし、次の注射は2日後に行ってください。

2. 取扱い方法

この治療で使用するバイアルおよび注射器はガラスでできていますので、落としたり、乱暴に扱くと割れる可能性がありますので、取扱いには注意してください。
注射針付バイアルコネクターと注射器は1回のみ使用し、繰り返し使用しないでください。

3. 保存方法

- 1) 30℃以下で保存してください。直射日光のあたるところや自動車内など高温になるおそれのあるところには置かないでください。夏の猛暑の時期など、冷蔵庫に保管する場合は決して凍らせないようにしてください。冷蔵庫から取り出して使用する際は、必ず室温程度に戻してからご使用ください。
- 2) ベタフェロンパッケージからバイアルや溶解液などを取り出して保管しないでください。
- 3) 使用するバイアル、注射針付バイアルコネクター、注射器などは、子どもの手の届かないところに保管してください。
- 4) 注射する際に調製したベタフェロン溶液は、速やかに使用してください。
- 5) 使用期限の過ぎた薬剤および溶解液は使用しないでください。

4. 廃棄方法

- 1) 使用したバイアルは注射針付バイアルコネクターの青い部分ごと廃棄袋へ、注射器は廃棄箱に入れてください。その際、使用済みの注射針にはキャップをはずさずに注射器ごと廃棄箱に入れてください。
- 2) 廃棄袋、廃棄箱は必ず子供の手の届かないところに置き、注射を行うときのみ取り出すようにしてください。
- 3) 注射後のバイアルや注射針、注射器などを入れた廃棄袋、廃棄箱は次の来院時に必ず持参して、病院で廃棄してもらってください。
※廃棄方法は病院によって異なる場合がありますので、病院の指示にしたがってください。

<注射しているときの注意事項>

注射するとき激しく痛んだり、血液が逆流する場合には直ちに針を抜いて部位を変えて注射してください。

注射時には以下に書かれた症状の発現に注意し、それらの症状があらわれた場合には速やかに主治医に相談して、指示を受けてください。なお、このような症状がおこっていることをご自身が気がつかなかったり、わからなかったりすることがありますので、この説明書を家族の方にも読んでもらい気を配ってもらうようにしてください。その他いつもと違った症状がみられたときは、その都度、主治医に連絡して指示を受けてください。

1. 注射部位の変化

注射部位が赤くなったり、色が変わったり、腫れたり、硬くなったり、痛くなることがあります。また、赤くなったり、硬くなったところが、かぶれたり、ただれたりすることがあります。

2. インフルエンザ様症状

発熱*、寒気、筋肉の痛み、体がだるくなる、汗をかかないなどの風邪によく似た症状があらわれることがあります。
*6～8時間で最高体温に達した後、徐々に低下しますが、ときには12時間以上続くことがあります。

3. アレルギー症状

蕁麻疹などのアレルギー症状があらわれることがあります。

4. 精神症状(うつ状態など)

気分がふさぎ込んだり、不安感やいらいら感を抱いたり、ぼんやりしたり、いつもと違ったふるまいがみられることがあります。

5. 脱毛

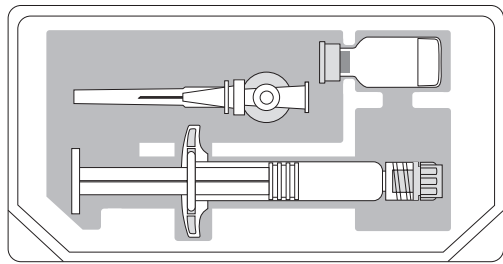
髪の毛が抜けてくることがあります。

6. その他の症状

めまいがしたりすることがあります。

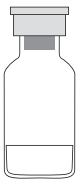
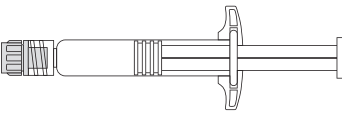
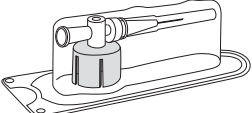
ベタフェロンを注射するための手順-1


まず、調製・注射を始める前に下記のすべてが揃っているか確認してください。



ベタフェロンパッケージ

[ベタフェロン(白色粉末のかたまり)が入っているバイアル(小瓶)、溶解液(0.54%塩化ナトリウム液1.2mL:透明な液)が入っている注射器、注射針付バイアルコネクター(ミックスジェクト®)]

	ベタフェロン(白色粉末のかたまり)が入っているバイアル(小瓶)
	溶解液(0.54%塩化ナトリウム液1.2mL:透明な液)が入っている注射器
	注射針付バイアルコネクター(ミックスジェクト®)

	消毒用アルコール綿(3枚)
---	---------------

廃棄袋、廃棄箱

注意

バイアル内に異物が混入していないか、注射器内の溶解液が透明で異物がないかを確認してください。バイアル内や注射器内に異常がみられた場合は新しいベタフェロンパッケージを使用してください。異常がみられたバイアルや注射器は、ベタフェロンパッケージごと次の来院時に必ず持参してください。

注意

準備品などに関して疑問がある場合は、主治医に確認してから注射の準備を行ってください。

ベタフェロン溶液の調製と注射の準備

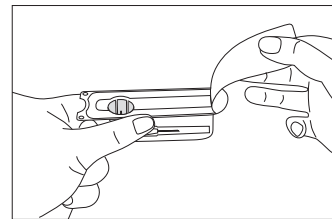
ここで使うものは

- ベタフェロン(白色粉末のかたまり)が入っているバイアル
- 溶解液(0.54%塩化ナトリウム液1.2mL:透明な液)が入っている注射器
- 注射針付バイアルコネクター
- 消毒用アルコール綿(1枚)
- 廃棄袋、廃棄箱

注意

バイアルに入っているベタフェロン(白色粉末のかたまり)を溶かす際には、必ず添付の注射器に入っている溶解液を使用してください。

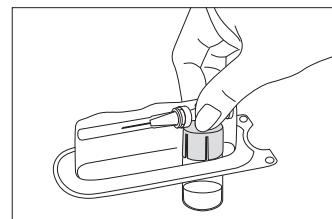
- 1 石鹸で両手をよく洗います。
- 2 ベタフェロンパッケージは、清潔で平らな安定したテーブルの上で開封します。
- 3 バイアルをテーブルの上に置き、バイアルの上ぶた(キャップ)をはずします。
- 4 バイアル上部のゴム部分を消毒用アルコール綿で拭いて清潔にします。
- 5 注射針付バイアルコネクターの包装容器の包装ラベルをはがします。



注意

注射針付バイアルコネクターは、包装容器から取り出さないでください。

- 6 プラスチック製の包装容器ごと注射針付バイアルコネクターを持ち、青い部分(針部分)をバイアルのゴム部分に突き刺し、しっかりと固定します。

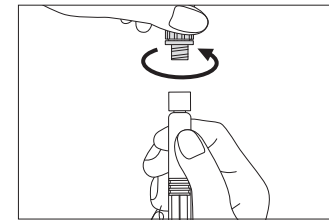


注意

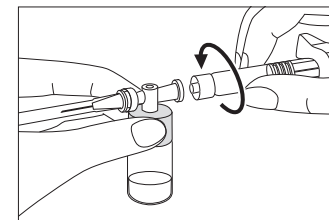
注射針付バイアルコネクターをバイアルと接続する際に、バイアルのゴム部分や注射針付バイアルコネクターの青い部分の内部にある針部分に手などが触れないようにしてください。もし、バイアルのゴム部分に触れた場合は、消毒用アルコール綿で拭いてください。また、注射針付バイアルコネクターの針部分や注射器接続部分に触れた場合は、その注射針付バイアルコネクターは使用せず、新しい注射針付バイアルコネクターを使って最初からやり直してください。

- 7 プラスチック製の包装容器を取り外します。

- 8 注射器の先端を上にしたまま、オレンジ色のキャップを矢印(→)の方向に回して取りはずします。



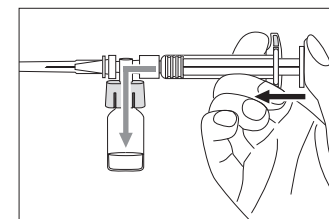
- 9 注射針付バイアルコネクターの青い部分を持ち、バイアルを下向きにした状態で、注射器を矢印(→)の方向に回して注射器接続部分へしっかりとねじ込みます。



注意

注射器と注射針付バイアルコネクターを接続する際に、注射器の先端に手などが触れたり、注射器のピストンを押さないようにしてください。もし、注射器の先端に触れた場合や溶解液をこぼしてしまった場合は、その注射器はオレンジ色のキャップをして廃棄箱に入れ、新しい注射器を使って最初からやり直してください。

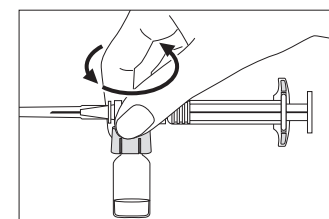
- 10 注射器のピストンをゆっくりと押し、溶解液をすべてバイアル内に注入します。



注意

溶解液を勢いよく注入しないようにしてください。溶解液を勢いよく注入すると泡が生じる場合があります。泡が生じると必要な量の液が取れなかったり、注射器の中に気泡が入りやすくなります。

- 11 注射針付バイアルコネクターの青い部分を持ち、大きな円を描くようにバイアルを静かに回し完全に溶解します。

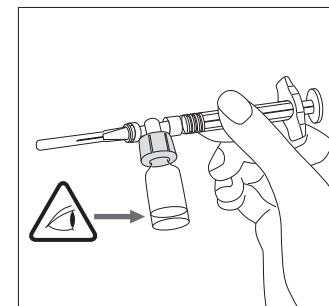


注意

決してバイアルを振らないでください。

- 12 溶解した液が透明で異物がないことを確認してください。

- 13 注射器内に空気が戻ってきた場合には、再度注射器のピストンをゆっくりと完全に押し、注射器内の空気をバイアルに戻します。

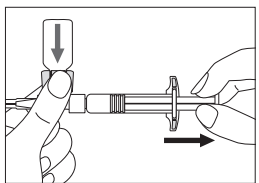


注意

ベタフェロン溶液に異物が混入していたり、変色している場合には、そのバイアルは使用せず新しいバイアルを使用して調製を最初からやり直してください。異常がみられた薬剤はバイアルごと次の来院時に必ず持参してください。

- 14 ピストンを押したままの状態、注射器を回転させてバイアルを上下逆さまにします。

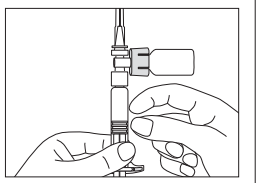
- 15 1.0mLの目盛りより少し多めにゆっくりと注射器のピストンを引きます。



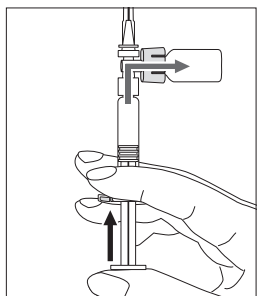
- 16 注射器内に大きな気泡が入っていないか確認します。

注意

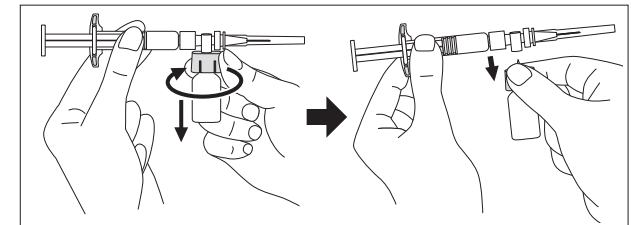
大きな気泡が入ってしまった場合は、注射器を立てて注射筒をやさしく指ではじいて気泡を注射器の上まで昇らせ、ピストンを押し、注射器内から取り除いてください。



- 17 注射器と注射針付バイアルコネクターを接続したままの状態、注射器を立てて注射器のピストンをゆっくりと1.0mLの目盛りまで押し出します。このとき空気もいっしょに押し出すようにします(多少の気泡が残ってもかまいません)。



- 18 注射器を横にし、注射針付バイアルコネクターの青い部分を持ち矢印(→)の方向に回し、注射器からバイアルを取り外します。
※注射針付バイアルコネクターの青い部分はバイアルとともに取り外されます。



- 19 バイアルはコネクターと接続したままの状態を廃棄袋に入れてください。
※廃棄方法は病院によって異なる場合がありますので、病院の指示にしたがってください。

- 20 調製は完了です。

注意

注射の準備ができたなら速やかに注射してください。注射方法は次頁(P.4)に示しています。